令和８年１０月

保護者・地域の皆様へ

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について

多気町教育委員会
多気町松阪市学校組合教育委員会

令和８年４月２３日に、小学校第６学年及び中学校第３学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、小学校では国語・算数の２教科、中学校では国語・数学・英語の３教科で実施され、多気町立小学校第６学年の児童１１８名と多気町立及び多気町松阪市学校組合立中学校第３学年の生徒１０７人が参加しました。調査結果については、小学校・中学校とも全ての教科において全国の平均正答率を上回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【中学校　国語】　◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内の記号は、問題番号

◇単語の活用について理解している。
◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。

<R8 中国調査問題>

＜おおむね理解している問題＞

◇「ら抜き言葉」であるものを選択する問題　〔 １三 〕（正答率：約９割）
◇ 気持ちがより伝わるように表現を工夫して書く問題　〔 ３二 〕（正答率：約９割）

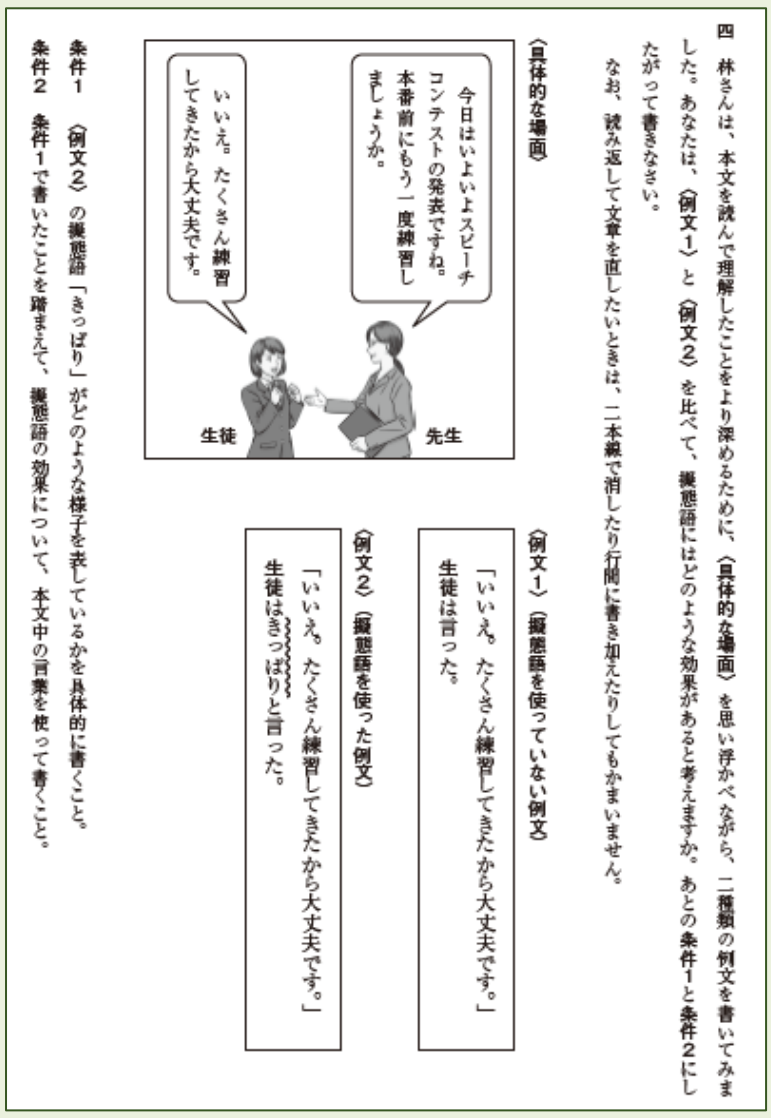
＜課題がみられた問題＞

◆ 国語辞典を参考にして、「ほうふつさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題　〔 ４二 〕（正答率：約４割）
◆ 2つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題　〔 ４四 〕（正答率：約３割）

大問４四

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。
条件①：〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。
条件②：「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

課題がみられた問題



四　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文１〉と〈例文２〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件１と条件２にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉

〈例文１〉〈擬態語を使っていない例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉〈擬態語を使った例文〉
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件１　〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件２　条件１で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

「R８全国学力学習状況調査中学校国語」より

正答率：３２.７％

正答例 **[正答率 32.7％]**	○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
誤答例	条件①は満たしているが、条件②を満たしていないもの …**50.4％** ▲「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

誤答例の分析と課題

〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできていますが、擬態語の効果について本文中の言葉を使って書くことができていません。本文の叙述を基に擬音語・擬態語について理解することができていないと考えられます。擬態語が表す「様子」自体は読み取れるものの、その言葉が「文章の中でどのような効果（役割）を持っているか」を、本文の言葉を根拠にして説明することに課題が見られました。

＜今後の学習の手立て＞　今後は以下の点に重点を置いた指導を行います。

１．「様子」の理解から「本文の叙述（根拠）」を紐付ける指導
擬音語や擬態語に出会った際、単に「どんな様子か」を想像するだけでなく、「本文のどの言葉（叙述）とつながっているか」「なぜその言葉が使われているのか」を本文に立ち返って探求させます。

２．自分の読み（解釈）のプロセスを振り返らせる
文章に対する大まかな感想や自分の考えだけで終わらせず、「自分は本文のどこをどう捉えてそのように解釈したのか」を客観的に振り返り、根拠を明確にしながら読む力を育てます。

３．対話を通した表現の味わいの共有
友達同士で「この擬態語によって、どんな効果が生まれているか」を話し合う機会を設定し、多様な視点から言葉の働きに気づくことができるようにします。

【中学校　数学】　◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内の記号は、問題番号

◇具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる。
◆箱ひげ図と四分位数の対応について理解することに課題がある。

<R8 中算調査問題>

<おおむね理解している問題>

◇ ２月３日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く問題　〔１〕（正答率：約９割）
◇ 動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く問題　〔 ７（１） 〕（正答率：約８割）

<課題がみられた問題>

◆ 図１においてAB＝AP、OB＝OPならば∠AOB＝∠AOPであることを、三角形の合同をもとに証明する問題　〔 ８（２）〕（正答率：約４割）
◆ 学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ問題　〔 ９（２）〕（正答率：約６割）

大問９（２）　学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ

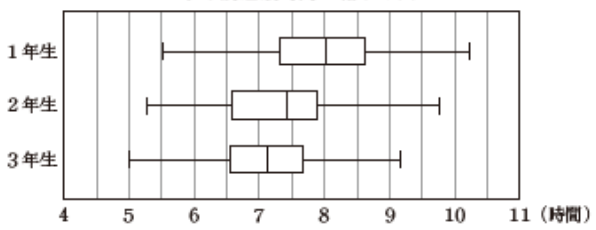
課題がみられた問題

9　保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにしました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるか気になりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

学年別睡眠時間の箱ひげ図



学年別睡眠時間の箱ひげ図から、次のことがわかります。

１年生は、［ Ⅰ ］がおよそ８時間であることがわかる。
２年生と３年生は、［ Ⅱ ］が7.5時間以上８時間未満の値であることがわかる。
よって、睡眠時間が８時間未満の生徒の割合は、１年生より２年生と３年生の方が大きい。

上の［ Ⅰ ］、［ Ⅱ ］のそれぞれに当てはまる言葉を、下のアからオまでの中から１つずつ選びなさい。

ア　最小値　　イ　最大値　　ウ　中央値
エ　第１四分位数　　オ　第３四分位数

「R８全国学力学習状況調査　中学校数学」より

正答率：64.5 %

正答 [正答率 64.5%]	Ⅰをウ、Ⅱをオと解答しているもの
誤答例	❶Ⅰをウ、Ⅱを工と解答 …6.5% ❷Ⅰをウ、Ⅱを工以外、または無解答…14.1% ❸Ⅰをウ以外、または無解答であり、Ⅱをオと解答 …１.0%

約８割の生徒が「中央値」については理解ができているといえる。

誤答例の分析と課題

❶❷の反応率の合計は 20.6%であり、箱ひげ図と中央値の対応について理解できていますが、第３四分位数との対応について理解できていない生徒がいると考えられます。本調査から、中央値については読み取れているものの、箱ひげ図と「第３四分位数」などの各数値との対応関係についての理解に課題が見られました。

<今後の学習の手立て>　今後は以下の点に重点を置いた指導を行います。

１．箱ひげ図の構造と各数値の対応を確実に結びつける指導
最小値、第１四分位数、中央値、第３四分位数、最大値が、箱ひげ図のどの位置（どこを指しているのか）にそれぞれ対応しているのか、グラフとデータを往還しながら視覚的に確認・理解させます。

２．複数の集団のデータを「比較して読み取る」活動の充実
実際にデータを箱ひげ図に表す活動や、複数の集げん（集団）の分布の傾向を比較する活動を多く取り入れます。

３．箱ひげ図を活用する必要性と意味の実感
「なぜ箱ひげ図を用いるとデータの傾向が比較しやすくなるのか」そのメリットや意味を、具体的な課題解決の場面を通して深く実感できるようにします。

生徒質問紙調査からみられた子どもの姿より　多気町の子どもたち

自分にはよいところがある	人が困っている時進んで助けている	人の役に立つ人間になりたい	学校に行くのは楽しい	地域や社会をよくするために何かしてみたい
89.8%（全国 84.2%）	100%（全国 91.4%）	98.1%（全国 96.4%）	93.4%（全国 85.3%）	84.3%（全国 72.4%）

※子どもたちが生徒質問紙で肯定的に回答した割合が高かった主な設問より

今年度の調査においても、学習習慣・生活習慣ともに肯定的に回答する生徒が多いという結果でした。上記の項目からも多くの子どもたちが安心できる環境の中で学校生活を送っていることがうかがえますし、地域の行事に参加するだけでなく地域のために何かできることはないかを考えている頼もしい姿があることもわかります。日々あたたかく見守り、しっかり支えていただける保護者と地域の方々の力の大きさは本町の強みの一つです。生徒一人ひとりが「自分のことを好きになること・自分に自信を持つこと」は学力向上を支える大きなポイントです。今後も家庭・地域の協力のもと、すべての子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう、本調査の結果を学校の職員全体で共有し、個々の教師が授業の工夫・改善へ、活かしていけるよう取り組みを進めていきます。

【中学校　英語】　◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内の記号は、問題番号

◇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞きとることができる。
◆社会的な話題について短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題がある。

<R8 中英語調査問題>
「聞くこと」

<おおむね理解している問題>

◇ ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する問題（聞くこと）　〔 ２ 〕（正答率：約７割）
◇ 学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する問題（聞くこと）　〔 ３ 〕（正答率：約８割）

<R8 中英語調査問題>
「読むこと、書くこと」

<課題がみられた問題>

◆ インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題（読むこと）　〔 １０（１） 〕（正答率：約３割）
◆ 留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ挙げ、その理由を書く問題（書くこと）　〔 １３ 〕（正答率：約４割）

<R8 中英語調査問題>
「話すこと」

大問１０（１）　インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題

課題がみられた問題

（１）【まいこが書いた文章】を読み、**まいこが最も伝えたいこと**を、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

「R８学力学習状況調査　中学校英語」より

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

<解答欄>

1 Many junior high school students use the internet to play games.
2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
3 There are many good videos for learning English.
4 We can find the meaning of an English word quickly.

正答率：３４．３%

【文章の解説】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

中学生の現状を示している（選択肢１）

まいこが一番伝えたいこと（選択肢２）

インターネットの使用が学習に役立つ１つ目の具体例を示している（選択肢３）

インターネットの使用が学習に役立つ２つ目の具体例を示している（選択肢４）

回答類型	反応率（%）
1	８．６
2	**３４．３**
3	２０．０
4	３７．１
無回答	０

誤答例の分析と課題

誤答の３、４を選択した生徒は、インターネットの使用が学習に役立つ例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えている具体と考えられます。
また、４を選択した生徒は、英文が“We can find..“と助動詞を用いていることや、文章全体の最後に選択肢４の英文が書かれていることから、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性も考えられます。
今回の調査から、意見文を読む際に、文章中に示された「具体例」や「現状（事実）」を、筆者が「最も伝えたいこと（主張）」と誤って捉えてしまう傾向が見られました。

<今後の学習の手立て>　今後は以下の点に重点を置いた指導を行います。

１．意見文の基本構造（「主張」と「具体例」の関係）を意識させる指導
英語の意見文には、筆者の最も伝えたい「主張」があり、それを支えるために具体例や現状が述べられているという文章の構造（フレーム）について、しっかりと理解させます。

２．キーフレーズ（シグナルワード）に着目させる
自分の考えを表す表現（“I think...” や “We should...” など）と、具体例を表す表現（“For example” など）を意識させ、文と文との論理的な関係を的確に捉える力を養います。

３．「文末」や「助動詞」だけに頼らない、文章全体の論理的な読み取り
文章の最後に書かれていることや特定の語句（助動詞など）だけに惑わされず、文章全体の文脈や筆者の意図に立ち返って吟味する読解の習慣をつけます。